

# 公立大学法人兵庫県立大学 平成26事業年度に係る業務の実績に関する報告書(概要)

教育研究水準の向上に資するため、大学の教育、研究、社会貢献及び管理運営の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

## 教育 ～次代を支え挑戦する人材を育成～

### 【グローバル社会で自立できる高度な人材の育成】

◎ 兵庫県立大学、高知県立大学、東京医科歯科大学、千葉大学、日本赤十字看護大学の5大学が共同し、災害看護分野では全国初の看護学研究科共同災害看護学専攻（5年一貫制博士課程）を開設し、第1期生として2名（5大学で計11名）が入学した。さらに、本学教員が中心となりプログラム運営を積極的にリードするとともに、学生は東北支援活動や地域における災害関連活動などの課外活動にも積極的に取り組んだ。

### 【兵庫の強みを活かした特色ある教育の展開】

◎ 阪神・淡路大震災から20年目の節目にあわせ国際シンポジウム（減災・復興国際シンポジウム「大学間グローバルネットワークの構築をめざして」）を平成27年2月に開催した。また、国内外の大学が減災・防災分野で連携・交流する「減災・復興に関する大学間ネットワーク“GAND”」を創設。（構成：兵庫県立大学、カンタベリー大学、ガジャマダ大学、中東工科大学、四川大学、カトリカ大学、宮城大学）

### 【修学、生活、キャリア形成など学生支援の充実】

◎ キャリア形成関連ガイダンスを年間120回（26年度：61回）開催。また、合同企業等説明会への参加企業が大幅に増加（25年度：163→26年度267）したほか、OB・OGメッセージ集を作成するなど、学生のキャリア支援・就職支援に積極的に取り組んだ結果、平成26年度就職率は、97.5%と昨年より0.6ポイント上回った。（26年度全国平均96.7%）

## 研究 ～世界へ発信し地域に貢献する研究を推進～

### 【高度な研究基盤を活用した先端研究の推進】

◎ 計算科学連携センターにおいて人材育成や研究成果の発信に取り組むとともに、放射光と計算科学の連携・融合を目指した「放射光と計算科学の研究会」を開催するなど、SPring-8、スーパーコンピュータ「京」を活用したプロジェクト研究を推進した。

### 【地域資源を活用した地域に貢献する研究の推進】

◎ 全国の研究者による「なゆた望遠鏡」での公募観測が増加（26年度：30件、25年度：20件）し、研究活動が活性化した。また、通常の観望会に加え、流星観望会「スターダスト」などに4千人近い参加者を得ており、地域への貢献も進めた。

## 社会貢献 ～地域再生の核として社会に貢献～

### 【産学連携活動の充実と全県展開】

◎ 次世代水素エネルギー社会の実現に向けた研究を進め、実証データが得られる段階にまで研究レベルを高め、その成果についての特許出願を行った（水電解用電極及びその製造方法）。また、「あわじ環境未来島」構想に参画し、沼島での実証に向けた連携活動に取り組んだ。

### 【地域の核となる大学づくりの推進】

◎ エコヒューマン地域連携センターにおいて、173名の学生が62の地域連携プロジェクトを実施した。こうした活動成果を学生社会貢献プロジェクトのワールドカップ国内大会「ENACTUS2014」において発表し、優勝を獲得した。

### 【兵庫の特色を活かした国際交流の推進】

◎ 留学に関する情報等を提供するとともに留学生と日本人学生との交流を支援する「国際交流サロン」を開設した。また、留学生が気軽に参加するため昼休みを活用した週2回の「交流ランチ」を開催するなど、留学生の交流拡大を進めた。（参加者延べ258人）

## 管理運営 ～自律的・効率的な管理運営体制の確立～

### 【戦略的広報の展開と情報開示】

◎ 創基85周年記念事業における記念式典の実施を契機として、学歌CDや大学の歴史を示した「県大物語」等の配付や創基100周年ビジョンの策定など大学の歴史・現状・目指す姿について公表し、広報活動を積極的に展開した。

### 【法人倫理の確保】

◎ 研究活動における不正事案が社会問題となる中で、コンプライアンス全般を取り扱うコンプライアンス推進会議を設置するとともに、関係規程の制定及び見直しを行うなど、公平かつ適正な職務の遂行などに取り組んだ。また、教職員に対する服務規律遵守の周知徹底など意識啓発も実施した。

## 小項目評価結果の状況：全体として年度計画を順調に実施している

小項目名	評価	小項目名	評価
教育研究等の質の向上		自律的・効率的な管理運営体制の確立	
1 教育に関する措置		1 業務運営の改善及び効率化	
(1) グローバル社会で自立できる高度な人材の育成	a	(1) 法人組織	b
(2) 兵庫の強みを活かした特色ある教育の展開	a	(2) 教員組織	b
(3) 地域のニーズに応える専門家の育成	b	(3) 教育研究組織	b
(4) 質の向上を目指す教育改善の推進	b	(4) 業務執行方法	b
(5) 修学、生活、キャリア形成など学生支援の充実	a	2 財務内容の改善	
2 研究に関する措置		(1) 自主財源の確保	b
(1) 高度な研究基盤を活用した先端研究の推進	a	(2) 経常経費の抑制	b
(2) 地域資源を活用した地域に貢献する研究の推進	a	(3) 資産運用管理	b
(3) 研究拠点の形成・発展のための重点資源配分	b	3 自己点検・評価及び情報の提供	
3 社会貢献に関する措置		(1) 自己点検・評価、監査の実施	b
(1) 産学連携活動の充実と全県展開	a	(2) 戦略的広報の展開と情報開示	a
(2) 地域の核となる大学づくりの推進	a	4 その他業務運営	
(3) 兵庫の特色を活かした国際交流の推進	a	(1) 県との密接な連携	b
		(2) 教育研究機能の整備	b
		(3) 安全・衛生管理	b
		(4) 法人倫理の確保	a
		(5) 組織及び業務全般にわたる検証の実施	-

## 実績報告書

年度計画の25の小項目ごとに、各取組事業評価結果を基に各事業の重要性を総合的に検証し、下記の4段階による評価を行った。

区分	達成度	判断の考え方	基準
a	計画を上回って実施	計画を上回って実施されていると判断	◎が有り△と×が無い場合
b	計画を順調に実施	概ね計画どおり実施されていると判断	◎と○が8割以上
c	計画を十分に実施できていない	計画がやや遅れていると判断	◎と○が8割未満
d	計画を大幅に下回っている	計画が大幅に遅れていると判断	△と×のみの場合

法人化3年経過後に実施する「組織及び業務全般にわたる検証の実施」については、今年度は評価していない。

## 【別冊】

年度計画に掲げられた176の各取組事業ごとに、自己評価や計画設定の妥当性を総合的に検証し、計画の実施状況について、下記の4段階による評価を行った。

区分	達成度	判断の考え方
◎	計画を上回って実施	達成時期・内容において計画を上回って実施していると判断
○	計画どおり実施	概ね計画のとおり推進中であると判断
△	計画をやや下回って実施	計画が遅れ気味であると判断
×	大幅に下回っている	計画が大幅に遅れており、取組状況に改善すべきところがあると判断